

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)
定時評議員会 (第 18 回) 議事録

1. 日 時 2024 年 6 月 25 日 (火) 開会 16 時 00 分
閉会 17 時 03 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 会議室

※JANPIA 事務所内 会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保したうえで実施 (ZOOM を利用)

3. 出席者

評議員 川北 秀人 辻 松雄 野村 浩子 村上 陽子
荒井 恒一 角田 久美 (藤沢 久美) 久保田 政一
菅原 晶子 (議長) (構成員 9 名中 出席 8 名)

なお、出席した評議員全員が ZOOM を利用して出席した。

理 事 二宮 雅也 岡田 太造 茶野 順子
なお、出席した理事全員が ZOOM を利用して出席した。

監 事 柳澤 義一
なお、出席した監事全員が ZOOM を利用して出席した。

事務局 大川 昌晴 (事務局長)
小林 弘幸 (総務部長)

4. 決議事項
理事選任の件

5. 報告事項
(1) 2023年度事業報告及び決算について
(2) 業務運営の状況全般について

6. 提出資料
資料第 1 理事選任の件

7. 議事概要

16時00分開会、定款第21条に基づき菅原評議員が本会合の議長に選任された。菅原議長は、出席評議員は現在数9名のうち8名が出席しており、定款第22条に定める決議に必要な出席数を充足していることを確認した。なお、議事録署名人は、定款第25条第2項により、辻評議員を選出した。

8. 決議事項 理事選任の件

岡田専務理事より、資料第1に基づき、本定時評議員会の終結の時をもって理事全員（5名）は任期満了となるため、次期役員体制（理事）について、理事会にて候補者を選出しており本評議員会に諮ること、候補者選定にあたっては、非営利セクター出身者をはじめ、様々なセクターのバックグラウンドを有する方々によってオールジャパンの運営体制を目指すこと、女性が参加すること、業務運営に最適な効果を生み出すことが可能な経験・知見を有していることの3点に配慮、検討の結果、現在の理事全員を再任としたいことの説明があった。各候補者については、定款第28条3項～4項記載の要件を充足していることを確認済みであり、利益相反防止のための必要な措置を講じること、指定活用団体の役員を選任は、内閣総理大臣の認可事項であるため、内閣総理大臣の認可が得られることを条件として選任するものとし、当該認可を受けた日をもって就任日とすること等の説明があり、理事候補者である二宮 雅也氏、清水 秀行氏、岡田 太造氏、茶野 順子氏及び鶴尾 雅隆氏について決を採ったところ、異議なく可決承認された。

9. 報告事項

（1）2023年度事業報告及び決算について

岡田専務理事より、2023年度事業報告及び決算について、定款第10条及び経理規程第41条の定めによる決算書類一式を作成の上、会計監査人及び監事による監査を受けたこと、これらについて、会計監査人による監査報告書、ならびに監事による監査報告書を添付の上、当機構理事会において協議、決議されており本評議員会にて報告を行うこと、事業報告書、貸借対照表、収支決算書及び財産目録については、休眠預金等活用法第26条4項に基づき、6月末までに内閣府に報告すること等の説明があった。

続いて、大川事務局長より、事業報告書について、2023年度の事業計画に基づき実施した事業内容を取りまとめ、網羅的に記載したこと、事業報告書の附属明細書はデータ集となっており、様々なデータを整理して掲載していること等の説明があった。

続いて、小林総務部長より、財務諸表等について、2023年度は約45億円の休眠預金等交付金を受入れ、過年度の繰越額と合わせて約98億円の活動支出に充当したこと、うち助成金として約58億円、出資事業にかかる経費含め事務局経費として約7億円を支出したこと、残余の額は翌年度に繰り越したこと等の説明があった。

これに関する質疑は以下の通り

- （川北評議員）JANPIAの活動を現場で支えるプログラム・オフィサーの育成は今

後も継続して取組んでいただきたい。また予防の観点から、ガバナンス・コンプライアンスを担う方の人材育成スキームの構築に着手いただきたい。特に実行団体のマネジメントシステムの拡充の一環として監事のコミュニティづくりの働きかけをお願いしたい。

(岡田専務理事) ガバナンス・コンプライアンスにかかる支援体制の充実化は重要と考えているので検討していきたい。

- (野村評議員) ギャザリングなどの横同士の学びあいの仕組みづくり、企業や各業界との連携、情報発信には引き続き力を入れていただきたい。企業連携について、ホームページや事業報告書で具体的に成果が分かるように項目立てをされると良いのではないかと。

(芥田企画広報部長) 企業連携について、企業とのイベントも多く開催しており、報告等は休眠預金活用事業サイトで行っているが、引き続きより分かりやすい形で情報発信に努めたい。物資提供等も多く受けており、皆様の信頼に応えられるよう取り組んでいきたい。

- (荒井評議員) 能登半島地震への対応について、取り組まれた上での課題や気づき等があれば教えていただきたい。

(和田助成事業部長) 現地訪問も踏まえた上での課題感は、行政中心であった支援に加えて、現地で活動を支える皆様とどのような形で市民セクターが活躍できる場を作れるかということと、地域の生業を復活させていくために休眠預金等活用制度をどのような活用していけるかという点である。

(2) 業務運営の状況全般について

大川事務局長より、業務運営の状況について、出資事業の公募では 13 事業の申請があったこと、引き続き審査を進めていき、10 月上旬を目途に理事会での決議を経て決定する予定であること、活動支援団体の公募では 31 事業の申請があったこと、予備審査やヒアリング面談、審査会を経て推薦事業が決まり、理事会にて諮る予定であることの説明があった。また、総合評価について、様々な角度から要因分析を行い今後の課題の洗い出しまで整理し、ホームページで公表したこと、能登半島地震への対応について JANPIA 職員が現地に赴き、資金分配団体や実行団体の活動現場の確認と今後のニーズ把握等の情報収集を行ったこと、コンプライアンス関連事案（実行団体公募における利益相反に関する件、実行団体における不正行為に関する件）について、現時点で必要な調査を進めながら内閣府とも連携の上対応を進めていること等の報告があった。

これに関する質疑は以下の通り

- (久保田評議員) JANPIA には、ぜひ社会貢献、NPO のプラットフォーマーになっていただきたい。助成金は毎年増額しているが、金額の決定方法と今後の計画を伺いたい。

(岡田専務理事) 毎年の助成額は、休眠預金等交付金活用推進基本計画によって

定められており、内閣府の中期的な目標では毎年1割ずつ増やす計画となっている。

- (辻評議員) 実行団体における不正行為に関する件について、今回報告いただいたような不正支出事案は度々発生しているのか。また団体の状況を事前にチェックする方法はあるのか。

(大川事務局長) これまでも、実行団体における助成金の管理面での月次の収支報告等の確認作業の中で適正化が必要な事案が認められた場合は速やかに対処を行っているが、今回のような悪質なケースは初めてのものと認識しており、資金分配団体における実行団体選定のプロセス含めて検証を進め再発防止に努めていきたい。

以上をもって、ZOOMを利用した第18回評議員会は、終始異状なく本日の議事をすべて終了したので、議長は出席の評議員、理事及び監事にその協力感謝し、17時03分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過及びその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2024年7月2日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人 (議長) 菅原晶子 ⑩

議事録署名人 (評議員) 辻松雄 ⑩

議事録作成者 大川昌晴 ⑩

以上